2021 年度 帰国隊員/青年支援プロジェクト 報告書 提出日 2022 年 10 月 31 日				
氏名:大西 里奈		実施国:マラウ	イ共和国	協力活動·調査研究
活動名称	途上国の初等教育における教育方法の改善策としての協同学習に関する調			
	查研究			
実施期間	2021 年 9 月~2022 年 10 月			

### (1)活動実施内容概要

本研究を通して、マラウイの小学校の授業に協同学習を取り入れることで、児童の学力や情意にどのような影響を与えるかを分析した。調査の対象は中都市の公立小学校7年生と4年生の表現芸術のクラスとした。その上で授業の質的向上に向けた具体的な教材内容と指導方法を提案するため、現地の教科書に準拠した協同的なアクティビティ集を作成した。

アクティビティ集の作成に当たり、教科書分析や現地教員へのインタビュー調査を行い、 授業に協同学習を取り入れることの困難性や、特に知識や技術の獲得が必要である単元 を調査した。

# (2)活動の結果・成果

協同学習が児童の学力に与える影響を調べるため、マラウイの小学校7年生を対象とした定期試験(ペーパーテスト)の点数分析を行った。協同学習を取り入れる前と、取り入れた後の表現芸術授業を受けた児童のテストの成績を比較し、有効な 108 人の結果を t 検定で検討したところ、t(108)=-8.00, p<.05, d=2.28, 95%CI[-13.28, -8.01]で有意差があり、協同学習を取り入れた後の方が試験の得点が有意に伸びた。試験合格率は 2.3 倍に上昇し、成績が Good/Excellent に達した児童の割合は 15 倍に上昇した。ここから、協同学習が児童の学力面に肯定的な影響を与えることが示唆された。

同時に、日本の学校でも協同学習を取り入れた授業と、教師主導の一斉講義型授業を 受けた生徒の成績を比較した。その結果、協同学習を取り入れた授業を受けた生徒のテ スト結果が高くなった。その後も協同学習を取り入れた授業を継続し、成績を記録した。

協同型授業を受けた生徒の成績分布を比較すると、協同学習を取り入れた授業実践後の成績は毎回近似しており、安定した分布であることが証明できた。この結果から、協同学習による成績の向上は偶発的なものではないことを実証した。

協同学習が児童の情意面に与える影響を調べるため、マラウイの公立小学校4年生の表現芸術クラスで児童の観察記録を行なった。その結果、身を乗り出して積極的に学びに

参加する児童の姿や、体を寄せ合って少しでも前に集まろうとする様子など、学びの身体性に現れる主体的で自律的な学びの構えの変化が現れた。

協同学習を取り入れた当初は限られた教材を奪い合っていた児童たちも、数ヶ月後には 教材を分かち合えるようになり、教室のあちこちで学び合う姿が見られるなど、人間関係力 の向上も観察された。

#### (3)(申請時に)期待された効果と実際の相違点

本研究の目的は途上国の初等教育で協同学習が児童の学力や情意に与える効果を明らかにし、授業の質的向上に向けた具体的な教材内容と指導方法を提案することであった。協同学習が児童の学力や情意に与える影響は、期待(仮説)していた通り、肯定的な結果が現れた。

授業改善のための方策を、特に協同学習の可能性に焦点を当てて研究し、持続可能な 開発のための教育の具体的な方法を提案するため、マラウイ現地で活用可能なアクティビ ティ集を作成した。

教科書分析の結果、教科書の記載に誤りがあることや指導書の内容が不十分であることが、表現芸術という幅広い領域にまたがる科目を一人の教員が指導することを困難にしている一因であることがわかった。

こうした問題点を踏まえながら、マラウイ教育科学技術省が発行する National Education Standards が推奨する協同的なアクティブ・ラーニングへの転換を促進するため、協同的なアクティビティを紹介した。

## (4)活動成果の持続発展性

本研究の成果であるアクティビティ集 "Expressive Arts: Activity book for standard 7"を 関係諸機関に提供し、マラウイの現地教員と今後も継続的に連絡を取りながら、活用状況、改善点を調査する。現在マラウイへの協力隊員の派遣も再開しており、現役の協力隊員の支援も得ながら全国的に広め、継続的に発展させ、将来的にはマラウイ教育省とも連携していきたい。

協同学習を取り入れた授業を通して、児童の主体的で自律的な学び、確かで幅広い知的習得、仲間と共に課題解決に向かうことのできる対人技能、他者を尊重する民主的な態度を育てることで、持続可能な社会の担い手となる責任ある「地球市民」の育成に寄与したい。

# (5)苦労した点、反省点、本活動を通じて得られたこと、学んだこと、教訓等

新型コロナウイルス感染症の感染拡大による活動の制限があり、日本国内での研究およびマラウイ現地の協力者を得ることにも苦労した。また、マラウイ現地協力者として連携していたカウンターパートの異動や、協同学習の実践家であった現地教員の他界により、マラウイとの情報交換やインタビュー調査が困難になった。

### (6)ご自身の今後のプラン、及び本活動の活用予定・計画

本研究を通して収集したデータや得られた結果をもとに、修士論文の執筆を進め、2023年1月下旬には神戸大学へ提出し、2月の審査会を受ける。その成果をまた、マラウイの教育機関へも提出し、マラウイとの継続的な交流を続けると共に、私自身は日本の教育機関で実践研究を深めていくことを検討している。